



DEN

No.21

2017.10.19

発行

作業療法を伝える
NEWS&COMMUNICATION

公益社団法人 大分県作業療法協会 広報誌



心豊かに作業療法

CONTENTS - テーマ:地域生活を支える作業療法(子ども編) -

1 フレッシュマンインタビュー:

- 医療法人玖寿会 高田病院: 繁田 将一
- 医療法人至誠会 帆秋病院: 佐藤 恵
- 株式会社空色 こどもデイサービス夢色: 江藤 由依
- 社会医療法人敬和会 介護老人保健施設大分豊寿苑: 後藤 雅貴

3 教えて! 作業療法「障害児通所支援とは」

5 施設紹介: 医療生協子育て療育センター「きらり」

7 まんが作業療法物語
～ 地域生活を支える作業療法(子ども編) ～

12 第20回大分県作業療法学会

13 以心 DEN 心

14 活動報告



公益社団法人 大分県作業療法協会



フレッシュマンインタビュー

身体障害領域

初心を忘れず、患者さんのことを考えて頑張ります。



医療法人玖寿会 高田病院 繁田 将一



学生時代の写真



リハビリの様子



病院の外観

Q1. 作業療法士になりたいと思ったきっかけは？

自分の兄妹が生まれつき障害を持っていたので、自分も障害を持つ人たちの手助けができればと思い作業療法士を目指しました。

Q2. 学校生活で楽しかったこと・苦勞したことは？

学校生活で楽しかったことは、2年生のときにクラスみんなで登山をしたことです。頂上に登ったときの達成感が良かったです。苦勞したことは、国家試験の勉強です。

Q3. どんな作業療法士になりたいですか？

患者さんのニーズに合わせて、常に何のためにリハビリをしているのか考えることで、頼りにされる作業療法士を目指していきます。



精神障害領域

出会った方々に感謝し、一步步成長していきます。



医療法人至誠会 帆秋病院 佐藤 恵



学生時代の写真



リハビリ室



病院の外観

Q1. 作業療法士になりたいと思ったきっかけは？

祖父が認知症で長期入院をしていました。会いに行くたび身体能力も認知面も低下していくのが学生の私でも分かりました。そんなとき、リハビリの方が来てくださり、初めてリハビリの職業を知りました。リハビリで笑顔になった祖父を見て、私も少しでも多くの人に笑顔になってほしい、何かできることはないかと思い、作業療法士を目指しました。

Q2. 学校生活で楽しかったこと・苦勞したことは？

楽しかったことは文化祭です。クラス全員で協力し、毎日放課後遅くまで残り、自分たちの考えを言いあい、できた作品を披露したときの、観客の方の笑顔、拍手は今でも忘れま

せん。苦勞したことは国家試験の勉強です。毎日勉強し、成績がなかなか伸びず悩み、苦しかったです。でも、友人・先生方・家族の支えあって自分と向き合うことができました。今思えば、苦勞したけど楽しかった忘れることのできない期間です。

Q3. どんな作業療法士になりたいですか？

患者さん一人ひとりの良いところ、困っていることを踏まえ、どういった方かを知った上で、問題点とともに向き合い、達成したときの喜び、楽しみを感じることができる作業療法士を目指しています。



今年度4月から作業療法士として一步を踏み出した、
大分県内で働く4人の新入会員に話を聞きました。



発達期領域

こんな作業療法士になりたいと思ってもらえるようなOTを目指します。



株式会社空色 こどもデイサービス夢色 江藤 由依



学生時代の写真



リハビリの様子



事業所の外観

Q1. 作業療法士になりたいと思ったきっかけは？

中学生のときにもらったパンフレットがきっかけです。母が看護師をしていたこともあり、リハビリという仕事は知っていて、興味もありました。そのときに理学療法士に比べ作業療法士の方が少ないと知り、作業療法士になろうと決めました。

Q2. 学校生活で楽しかったこと・苦勞したことは？

体育祭や学園祭は3学年で協力して、進めていくので盛り上がり楽しかったです。苦勞したことは、国家試験の勉強です。なかなか自分の思った結果にならずに何度も悩み

ました。しかしグループの友人の支えもあり、前に進むことができました。そのときの仲間には本当に感謝しています。

Q3. どんな作業療法士になりたいですか？

今働いている職場の先輩のように、通ってくるお子さんに対して、どのような支援をすれば良いのか計画し、実行できるような作業療法士になりたいです。



高齢期領域

理想の作業療法士像を模索し、後輩に教えられる人になりたいです。



社会医療法人敬和会 介護老人保健施設大分豊寿苑 後藤 雅貴



学生時代の写真



リハビリ風景



勤務先の外観

Q1. 作業療法士になりたいと思ったきっかけは？

小学生のとき、筋ジストロフィーの方と出会いました。まだそのときはどんな病気であるか、まったく知りませんでしたが、身体に不自由のある方が一生懸命リハビリをしている姿を見て、人のためになる仕事をしたいと思ったのがきっかけです。

Q2. 学校生活で楽しかったこと・苦勞したことは？

学園内での行事、学業、実習など苦勞した点は多いですが、その度に学生同士で助け合い、目標に向かって頑張ってきました。そんな学生生活はとても楽しかったですし、

有意義な時間でした。

Q3. どんな作業療法士になりたいですか？

施設内だけでなく、積極的に地域での生活に関わり、利用者様がより地域で過ごしやすい環境作りに取り組みたいです。また、利用者様一人ひとりとの関わりを大切にしたいです。



教えて！ 作業療法



障害児通所支援とは

2012年の児童福祉法等の改正によりスタートした制度で、さまざまな障がいのあるお子さんが身近な地域で質の高い支援や療育を受けやすくなるよう、それまでの障がいの種別により分けられていたサービス体系が一元化され、創設されました。未就学児と就学児とで分けられた通所系サービスと訪問系サービスがあり、なかには障がいの特性に応じた専門的な支援に特化した事業所もあります。

まずは、どんなサービスがあるのか説明するね。



通所系サービス

児童発達支援

障がいのある未就学のお子さん(18歳未満)に対し、日常生活の自立のための動作の指導や集団生活への適応のための支援を行います。通園方法には、お子さん一人で通う場合と親子で通園する場合とがあります。

医療型児童発達支援

通常の児童発達支援による支援とともに必要な治療を提供します。



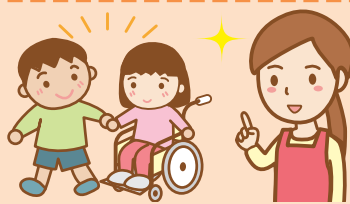
放課後等デイサービス

放課後や学校休業日(土曜、夏休み等)に支援を必要とする障がいのあるお子さん(小、中、高校生)に対して、生活能力向上のための支援等を行い、自立を促進するとともに放課後等の居場所づくりを行います。

訪問系サービス

保育所等訪問支援

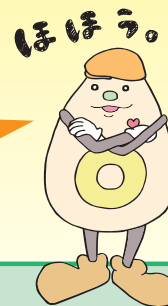
保育所や幼稚園、認定こども園、小学校、特別支援学校等を訪問し、障がいのある子どもたちが安心して集団生活が送れるように支援をします。



これらのサービスは・・・

児童発達支援・放課後等デイサービスは障害児通所給付費という制度の対象となるため、利用するには市区町村に申請を行い、受給者証を取得する必要があります。障害者手帳の有無は問いません。

障害児通所支援ではどのような
作業療法が行われているのだろう？



運 動

遊びながら楽しく身体を動かすことで、運動機能の発達をうながします。

アスレチックなどのダイナミックな運動だけでなく、ハサミや鉛筆などの手先も細かい作業など道具の使い方や工夫も提案します。また、子どもたちが得手不得手の遊び(砂遊びや水遊びは苦手、高いところに登ったり危険な遊びが大好きなど)に関しても安全に楽しめるよう支援します。



ことば・コミュニケーション

ことばの遅れがあるお子さんに対して、発語量や語彙を増やすだけでなく、ことば以外のジェスチャーや絵カードを用いる方法などいろいろな代替手段を工夫して、他者とのコミュニケーション能力を高めます。また、言葉の発達は良好でも、場の空気を読めない、相手の気持ちを察することができないなど、お友だちとの関係をうまく築けないお子さんもいます。そのような場合には、遊びやレクレーションを通して、お友だちや周りの人と上手にコミュニケーションを取る方法の学びを支援します。



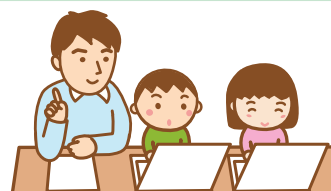
日常生活動作

食事・排せつ・着替えなどの基本的な生活習慣の獲得を支援します。なぜその動作ができないかには、いろいろな原因があります。例えば、食事場面では、好き嫌いが多い、箸が持てない、ソワソワし席について食事ができないなど、なぜ援助が必要なのかを把握し、動作練習するだけではなく、環境も整えていきます。



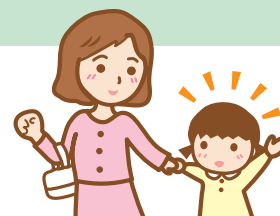
学習支援、就学・就労準備

就園・就学に向けた支援を行います。学習や学校生活に必要な身辺動作だけでなく、集団活動が円滑に過ごせるよう集団行動や時間の管理なども支援します。また、園や学校の先生との情報交換も行い、子どもたちが楽しく通い、より多くのことを学べるよう周囲の理解を深めたり、環境調整を行います。中学生や高校生になったら、就労を視野に入れた社会見学や職場見学などを行っている事業所もあります。



親子関係

就学前のお子さんの場合、一緒に過ごすことが多い親子にとって、離れて過ごす「母子分離」も大切な体験となります。一方、「親子通園」で一緒にプログラムを受け、子どもへの関わり方を学ぶこともできます。親御さんの悩みや苦労を確認し、声掛けや工夫で家庭での生活が穏やかに過ごせ、子どもたちの成長をともに感じ、喜ぶことができるよう支援します。



作業療法士は子どもたちの特性や発達状況をとらえ、成長を促す関わりや環境を整えることで成功体験をしてもらい、日常生活での「できた」を専門的に支援するよ。このように地域での需要は増え、児童発達支援や放課後等デイサービスなどで働く作業療法士も少しずつ増えているんだ。

医療生協子育て療育支援センター 「きらり」



池田 純子 (写真中央)

大分健生病院 心理士、医療生協子育て療育支援センター「きらり」園長
京都吉祥院病院小児科を経て、1986年大分健生病院に入職。

橋本 瞳 (写真右)

「きらり」親の会元会長。現在親の会オブザーバーとして、会を支えている。本年6月「きらり」OBを中心とした親のネットワーク『そらいろのたね』を結成。その代表となった。

河野 佳奈 (写真左)

大分健生病院 作業療法士。
平成17年3月 大分リハビリテーション専門学校 作業療法士科卒業
重症心身障害児者施設、精神病院勤務を経て、
平成21年4月 大分健生病院 リハビリテーション課入職。

Q1. 子育て療育支援センター「きらり」を利用することになったきっかけは何ですか。

橋本さん

生まれたときから、泣き出したら2、3時間は泣き止まず、子どもとどう関わっていいのかわからない状態が続きました。成長しても目が合わないことや言葉の少なさがずっと気になっていました。1歳半健診で、そのことを相談し、保健師や専門の先生に育て方をアドバイスしていただきましたが、上手くはいかず不安は募るばかりでした。そうしているうちに、私自身夜眠れなくなり体調を崩してしまいました。そこで初めて子どもを連れて健生病院を受診しASD(自閉症スペクトラム症)の診断を受けました。そのときに、地域に集団での療育機関があることを知り、「きらり」を利用することになりました。

Q2. 橋本さん親子が、サービスを利用してからの様子や経過、また、利用してからの変化などがありましたら教えてください。また、支援する側から親子にどのような助言をされていたのか教えてください。

橋本さん

母子通園というものに馴染みがなく、不安に思うことがたくさんありましたが、「きらり」の方がそんな不安をすべて受け止めてくれました。元気な笑顔で迎えてくれたときのことを今でも鮮明に覚えています。「きらり」に入って、子どもを育てる上でいちばん大切だと感じたことは、観察する力でした。当時、息子はパニックになると物を投げたり、自分を傷つける行為(自傷行為)を繰り返していました。それを私は叱って止めることしかできませんでした。そのとき、「きらり」の方から「そのような行動にも理由があるんだよ」とアドバイスをもらい、それ以降、パニックになる前後の様子をよく観察するようになりました。声掛け、接し方、一人でできる力を信じて待つなどたくさんのことを教えてもらい、続けていくうちに、子ども自らSOSを出してくれるようになりました。

河野さん

子どもが使うバッグや衣類一つにしても道具や方法をその子に合ったものに変更するアドバイスをし、身の回りのことが一人でできるよう促しました。そうすることで子どもの「できた」をお手伝いすることが私たち作業療法士の役割

地域で主に就学前のお子さんに対して“児童発達支援”を提供している、医療生協子育て療育支援センター「きらり」の園長であり心理士の池田さんと作業療法士の河野さん、そして同センターを利用されている橋本さんにお話をおうかがいしました。



施設外観

だと考えています。また、自分がしたいことがあるのに、気持ちに折り合いをつけることができなかった場面では、自分を責め続け「今日は何もできなかった」と全否定することが多くありました。「できなかったこともあったけど、頑張れたこともあったね」とお母さんからフィードバックしてもらうことで、どんな自分でも受け止めてもらえる経験をたくさん積んで、親子の信頼関係を構築するお手伝いもさせてもらっていました。

Q3. 「きらり」は母子通園ですが、母子通園にした理由を教えてください。また、母子通園のメリット(家族、本人)などもありましたら教えてください。

池田さん

当事業所に通っている保護者は、みなさん子どもの育てにくさを感じています。小学校入学までの子育てが一番大変です。ご飯を食べる、オムツを替える、服を着替えるなど色んなことを教えないといけません。その時期に、人にすべて任せてしまうと自分の子どもとどう関わって良いのか分からなくなってしまいます。だからこそ母子通園にして、一番大変な時期ではあるけれど私たち職員とともに協力して行います。保護者が子どもを理解することを支え、しんどい思いを半分支えるようにします。

私たちは、「きらり」を利用するお子さんの人生の中で短い期間だけしか関りが持てません。子育ての入り口のところで、親がひとりで悩み子どもを好きになれないことや、虐待に走ることはあってはならないと思います。そのため、私たちは「子どもたちの魅力を伝え、子どもの笑顔を見て親も笑顔になってもらう。」そういった「笑顔のスパイラル」を作ってあげることが役割だと思っています。

もう一つ大切なことは、「生活が発達を促す。」ということです。睡眠、食事、排泄などの基本的な生活習慣を整えることが健康な体を作り、命を強くします。そのために、保育の力と作業療法士の視点が必要不可欠だと思います。

Q4. 作業療法士に求めるもの(必要性、意義)は何ですか。

橋本さん

息子が3歳のときから作業療法の個別訓練を受け成長する姿を見てきました。しかし、個別訓練の中でできていたことが集団に入ったときに同じようにできるとは限りません。そんなとき、河野さんが集団療育で関わってくれたことはとても重要でした。だからこそ、今後そのような作業療法士の方々が地域の集団療育の場に増え、子どもたちをサポートしてくれることを期待しています。

池田さん

作業療法士のような専門職は療育の現場には絶対的に必要です。子どもたちの発達を見る力とスキルをより深めて十分に専門性を発揮してほしいと思います。集団や個別の重要性を知っている作業療法士だからこそ生活に密着した工夫やアドバイスができると考えています。

Q5. 作業療法士の役割はどのようなものだと思いますか。

河野さん

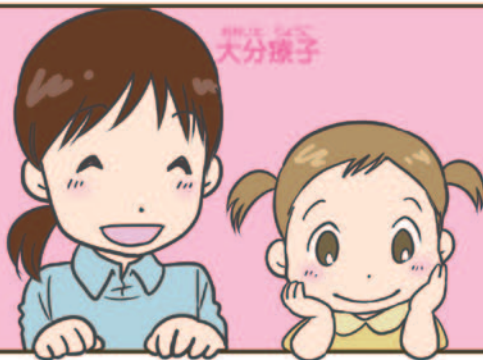
OTの役割は、カレーのスパイスのようなものだと感じています。私達、専門家の言葉は、ご家族にダイレクトに入りやすいと感じます。あくまでも生活の主体は親と子どもです。だからこそ決めつけてしまうのではなく、「生活の中に一工夫を加えることで、できることが増える(うま味が増す)」スパイスのような存在でありたいと常に思っています。

まんが

作業療法物語

地域生活を支える作業療法（子ども編）

大分県



3歳になったAちゃんは、最近かんしゃくを起こすことが増え、お母さんは悩んでいました



今まで楽しく遊んでいたのに私の育て方が悪いのかしら…

お天気のよい日は、自宅近くの公園にAちゃんを連れて遊びに出かけます



ほかの子どもたちは、すべり台やブランコなどの遊具や砂場で楽しく遊んでいます、Aちゃんはいつも同じ水場へ行きます

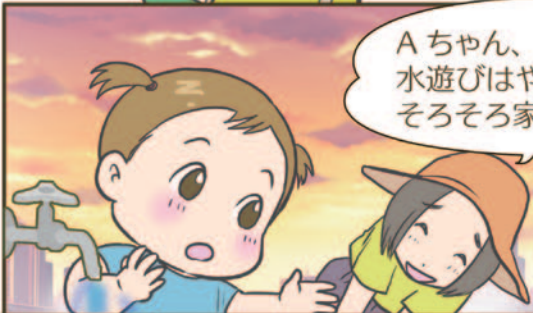


今日も水遊びかあ

お友だちや私にも、全然興味ないみたい



Aちゃん、もう暗くなるから、水遊びはやめてそろそろ家に帰りましょう!



ガーッ

Aちゃん!

いい加減にして!



ある日、保健所での3歳児健診で—

からだ（身体）の発達は特に問題ないですね

少しことばの発達はゆっくりなようです

他になにが気になることや心配なことはありますか?

三歳児健診

最近かんしゃくが増えているんですが、何が理由なのか、どう接したら良いか分からなくて

そうなんですね ※1
では一度、巡回療育相談で専門の方に診てもらいましょう

※1 巡回療育相談では、心身や情緒面での発達の遅れが気になるお母さんなどに対し、専門のスタッフ（医師、看護師、心理士、言語聴覚士、作業療法士など）が個別の相談に応じる。市町村によっても名称や利用方法は異なるから、お住まいの市町村に問い合わせてみてね。



Aちゃんとお母さんは、巡回療育相談に行き、Aちゃんの特性と関わり方の工夫を教えてくださいました
また、療育機関への受診や^{※2} 集団療育に通ってみることもアドバイスしてもらいました

※2
集団療育とは、日常生活の自立支援や、
保育園や幼稚園のように遊びや学びの場を提供する、
障がいや特性を持った未就学の子どもたちが通う施設。
少人数で専門のスタッフが関わることが特徴。

後日、療育機関を受診しました

Aちゃんは言いたいことが
上手く伝えられなかったり、
興味が少し偏っているなど、
^{※3}
「自閉スペクトラム症」と
いう特性をお持ちのようです

Aちゃんの特性をよく理解し関わっていくことで、
できることも増えていきますよ
集団療育として、『児童発達支援事業所』
というところがあるので行ってみてはどうでしょう？

※3
自閉スペクトラム症とは、対人関係の障害やコミュニケーションの障害、
パターン化した興味や活動をするといった特徴をもつ障害のことだよ
知的障害（精神遅滞）の有無や特性の種類や程度など、症状は多種多様なんだ

Aちゃんとお母さんは、
児童発達支援事業所に通うことになりました

Aちゃん、お母さん
いらっしゃい
よくきてくれましたね

はじめまして、
作業療法士の療子です
よろしくお願いします

先生、私頑張って
通いますので、
この子との関わり方を
教えてください
よろしくお願いします

みんな自分の棚に
お弁当箱と、
歯磨きセットをバッグから
出しておいてね

Aちゃん。お弁当箱と
歯磨きセットを出すだけだよ
ほらほら…

その後も、A ちゃんは棚の前になると泣き始める日が続き、療子が親子支援に入りました



お母さんが手伝ってあげるから、中身を出して

お母さん、A ちゃんきっと自分でしたいのかも



A ちゃんはリュックのチャックを開けることができないんだ
歯磨きセットは、薄い生地と細い紐だから指が入らなくて開けられないんだわ

療子は、A ちゃんが荷物を取り出しやすいカバンに変えてみることや、キルト生地で巾着を作り、太い紐を使用するよう提案をしました



口が広く、すわりの良いバッグの方がよいですね 例えば水泳バックのような

A ちゃんの「できる」を増やしてあげましょう 待ってあげることも大切です



みんなといっしょがよいと思ってたけど、A ちゃんが「できる」道具を選んであげることも大切なんだあ



その結果…

1人でカバンからお弁当を棚に出し、巾着袋の中から歯磨きセットを出せるようになりました
すると、A ちゃんが泣くことは、びたりとなくなりました



お母さんも以前に比べ笑うことが増え、A ちゃんと楽しみながら一つ一つの課題に取り組んでいくようになりました

療子さんのアドバイスのおかげで、泣いている原因が必ずあることが分かって、あの子の一つ一つの行動をよく観察するようになったの♪

A ちゃんも自分でできることを本当に喜んでますね

今まで大変だったけど、あの子が新しいことにチャレンジし、できたときの笑顔を見ることが、私の楽しみになっているんです♪

年中組の秋

お母さん、
Aちゃんも来年は
年長さんになりますね

はい
少しずつ子どもが
言いたいことが
わかってきました

小学生になれば
30人ぐらいの
集団になります

年長からは自宅近くの
幼稚園に通わせてみるのは
いかがでしょうか？

療子さん、
大丈夫かしら…

月に2回はこの事業所で
集まる機会をつくります

その時に相談もうけれるし、
こちらから幼稚園に何って、
先生方にAちゃんの関わり方について
※4ご提案することもできます

療子さんは月に1回Aちゃんに通っている幼稚園に行き、
保育士さんとAちゃんとの関わり方についてのアドバイスを続けました

Aちゃんの様子は
どうですか？

療子さんのアドバイスのおかげで、
最近はみんなと同じ活動が
できるようになってきました

※4
保育所等訪問：障がいをもっている子どもが、他の子との集団生活に適應することができるよう、
対象の子どもの身体及び精神の状況や
置かれている環境に応じて適切かつ効果的な支援を行うものです。

発表会の練習も
率先して練習しています

新年度の春

Aちゃん家族が入学式の後、事業所に遊びに来てくれました



療子さん、この子も
沢山できる事が
増えたんですよ！

私も入学に向けて
いろいろな道具の
工夫をしたのだ

Aちゃん、お母さん
お入学おめでとうございます！
Aちゃん
大きくなったね！

着替えが一人でできるように、
袖にウサギのアプリケを
貼って目印にしたんですよ

それに靴も工夫して、
左右が分かるようにしたの
この子ウサギが好きだから、
喜んでくれて

うさぎが右



うさぎの顔が
できた!!

お母さん凄い！
それって
「作業療法」ですよ！

療子さんのおかげで、
子どもにあった生活の工夫を考える
知恵を教えてくださいました！

これからも一緒に楽しく
過ごせるように考えます！

作業療法では、発達に障害のあるお子さんの成長を支援し、
将来的に地域で自立した生活を送る為に
必要な学びを得られる環境づくりを支援します

そのために、お子さんだけでなく、保護者や教育の場など家族支援や地域支援にも積極的に取り組みます

第20回大分県作業療法学会

テーマ「『承前啓後』～地域をつなぐ作業療法の技～」

開催日時：平成29年1月22日(日) 9:30～16:00

開催場所：ホルトホール大分 3F大会議室他

内 容：①特別講演 **日本作業療法士協会設立50周年記念講演**
講 師： 土井 勝幸 氏
(一般社団法人日本作業療法士協会 副会長)
「地域で活きる(生きる)作業療法
～求められる姿とは～」

②演題発表 **一般演題(21演題)**

③学会長賞・特別賞表彰式

学会長賞：荒木 明香里 (向井病院)
「重度認知症デイケアの新しい取り組み
～化粧教室を通して～」

安田 有希 (デイサービス楽 横尾センター)
「教え子の同窓会に参加するために
～GI値を用いて食事習慣を見直す
きっかけ作りに携わった経験～」

特 別 賞：芦刈 一也
(湯布院病院附属居宅介護支援センター 通所リハビリ)
「熊本～大分地震にて被災した通所リハ利用者の生
活不活発病予防と精神的ケアを目的とした取り組み
～公民館でのボランティア活動～」

参加者数：165名(内：県士会会員161名 非会員2名 他職種2名)

今回で20回目という節目を迎え、当日は165名の方々にご参加いただきました。特別講演では、「地域で活きる(生きる)作業療法～求められる姿とは～」と題し、日本作業療法士協会副会長である土井勝幸氏を招き、ご講演いただきました。地域ケア会議やすでに多くの市町村でスタートしている介護予防・日常生活支援総合事業において、大分県が先進的に行ってきた取り組みが全国的に普及してきていることを知り、大分県で仕事をしていることに誇りを感じると同時に、より多くの地域で作業療法士が活躍できるように努力をしなければならぬと感じました。

午後からは口述発表とポスター発表に分かれて一般演題発表が行われました。それぞれの発表に多くの聴講者が集まり、積極的な意見交換や質疑応答が行われていました。対象者の地域での生活に焦点を当てた取り組みを紹介した演題から、学会長賞2題、特別賞1題が選ばれました。

今求められている作業療法士の専門性を再確認し、地域をつなぐ作業療法の技を最大限に活かしつつ、より一層の資質向上へ改めて意識を高めることができた学会となりました。



特別講演



ポスター発表



口述発表



学会長賞授与式



「作業療法士の立場で 個人事業を展開して思うこと」

コネクトリハビリテーション 山形 茂生



私は、2年前に長年勤務していた組織(リハセンター)を離れ、平成28年1月から個人事業を展開しています。事業内容は、“福祉用具のレンタル事業所、特別養護老人ホームやデイサービスなどに務める職員への教育”、“福祉用具メーカーに対する開発支援と作業療法士の視点からの社員教育”、“専門職に対する福祉用具活用に関する研修会講師”などです。

私のように、病院や介護事業所に所属せずに個人で事業を展開しているセラピストは、全国的にも珍しいのではないかと思います。

この1年半、個人事業を展開していく中で感じるがあります。

それは、「人に助けられながら、仕事をしている」ということです。周囲の人には、謙虚・誠実な気持ちを持ち、協調性が大事であり、そんな関係の中で、自分の専門性を示すことが大切だと切実に感じる毎日です。

若いときには、このように個人事業を立ち上げることなど、夢にも思っていなかったもので、前職場に務めているときには、きっとサラリーマンのマントをかぶり努力を怠り、横柄な態度であったことも多かったと反省しています。

しかし、今の時代、人生は何が起ころかわかりません。数年後に何があっても適応できるように、“作業療法士として技術研鑽”、“組織内部だけでなく外部の人との人脈作り”、そして“魅力のある人間になれるように日々磨く”ことが大切なことかもしれません。そんなことを実感しながら毎日頑張っているところです。

そんな中、最近の介護状況に一つの新しい波が押し寄せようとしていることをご存知でしょうか。

実は、今年の3月に、『一般社団法人こうしゅくゼロ推進協議会』が設立されました。設立チームの一員として関わり、僭越ながら教育部会の部会長として就任させていただくことになりました。福祉用具が病院や施設で整備されているか否かが、退院後の生活に大きく影響します。今までは、研修会に参加しても福祉用具が整っていないなどの理由で、学んだことが現場では実践できないことが多いという課題もありました。入院時から適切な福祉用具を活用すれば、在宅生活にスムーズに移行できます。病院や施設にいる段階から福祉用具を活用できる仕組みや、個々の事例に合わせた選び方や、使い方ができるための支援を充実させることにより、拘縮をなくすることができるのではないかと取り組んでいます。欧米では二次的障害により、拘縮・変形をしたお年寄りはいないそうです。日本にしかこの状態は見られないといわれており、原因はいろいろ考えられますが、その内の一つには、起居動作や移乗動作の力業での介助方法などにより、引き起こされているのではないかと考えられています。

関心のある方は、どうぞHP (<https://www.conzero.org/>)をご覧ください。拘縮・変形をなくすための活動を一緒に進めていきましょう。

※拘縮(こうしゅく)

麻痺による筋緊張の高まりや体を動かさないことにより、関節が硬くなり、関節の動きに制限を生じた状態。

第20回 大分県作業療法学会

日 時：平成29年1月22日(日) 9:35～16:00
場 所：ホルトホール大分
内 容：「承前啓後～地域をつなぐ作業療法の技～」
特別講演：
「地域で活きる(生きる)～求められる姿とは～」
講 師：土井 勝幸(日本作業療法士協会 副会長)

参加者数：165名

生活行為向上マネジメント 事例検討会

日 時：平成29年2月4日(土) 9:30～12:30
場 所：大分県作業療法協会ビル
内 容：グループディスカッション、事例報告、講演
講 演：「通所リハ加算について現状報告」
講 師：真田 康孝

参加者数：12名

制度対策研修会

日 時：平成29年2月19日(日) 9:30～12:45
場 所：ホルトホール大分
内 容：①「在宅医療・介護連携に向けた別府市の取り組みへのOTの関与について」
講 師：古本 節子
(別府リハビリテーションセンター)
②「在宅医療・介護連携に向けて各市町村においてOTが取り組むべきこと」
講 師：日隈 武治
(大分リハビリテーション専門学校 副会長)

参加者数：33名

大分県スキルアップ研修⑦

日 時：平成29年2月12日(日) 10:00～14:00
場 所：全労済ソレイユ
内 容：①「作業療法士が行う地域診断～障害の枠を超えて～」
講 師：遠藤 真史(NPO法人那須フロンティア)
②「障害福祉領域の地域ケア会議からみえてきたこと」
講 師：高森 聖人(株式会社空色 会長)
③「大分県委託事業の総括～目標を達成できたのか～」
講 師：高森 聖人(大分県作業療法協会 会長)

参加者数：27名

大分県スキルアップ研修⑧

日 時：平成29年3月24日(金) 19:00～21:00
場 所：ホルトホール大分
内 容：①「地域ケア会議で薬剤師は何を語っているのか～在宅薬剤師の役割～」
講 師：井上 茂樹(大分県薬剤師会)
②「助言者としての姿勢～効果的な助言と規範的統合～」
講 師：竹村 仁(大分県理学療法士協会 理事)

参加者数：31名

平成29年度 定時総会

日 時：平成29年5月28日(日) 10:00～11:30
場 所：大分オアシスタワーホテル
出 席：34名
議 決：590名

紹介

＊作業療法士の仕事を知っていただきたいくて…＊

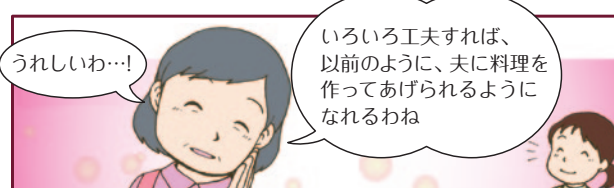
『おしごとガイド 作業療法士』 ～人を笑顔にするリハビリテーション～ を作成しました。

当協会は、小学生や中学生を対象とした作業療法および作業療法士の啓発・普及活動として、『おしごとガイド 作業療法士～人を笑顔にするリハビリテーション～』を作成しました。作業療法士の仕事を、まんがを使ってわかりやすく紹介した本誌の「まんが作業療法物語」をもとに作成したガイドブックです。

事故や病気によって障害を持った人々が、再び生き活きとした人生が送れるよう仕事・遊びなど日常生活での作業(活動)を通して心と体を元気にしていくお話です。

大分県内の小学校269校、中学校126校に寄贈させていただき、学校図書館への配置をお願いしました。小学生、中学生のみなさんは、ぜひ図書館で手に取って読んでみてください。

- A4版/70ページ
- オールカラー



学会テーマ

「再考」

活動と参加を支える
作業療法



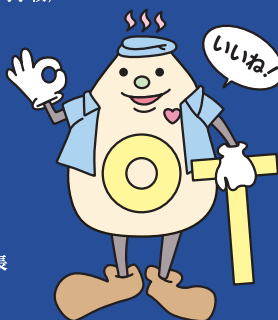
第21回 大分県作業療法学会

学会長 後藤 英子 (常務理事/大分リハビリテーション専門学校)

会期 2018年1月21日(日)

会場 ホルトホール大分3F
大会議室 301・302・303会議室
大分市金池南1丁目5番1号

講師 谷川 真澄 氏 日本作業療法士協会 MTDLP推進プロジェクト委員長
有限会社なるぞ 代表取締役



一般演題 演題募集中!

抄録締め切り/平成29年10月13日(金) 詳しくは裏面・ホームページにてご確認ください。

お問い合わせ先

(公社)大分県作業療法協会

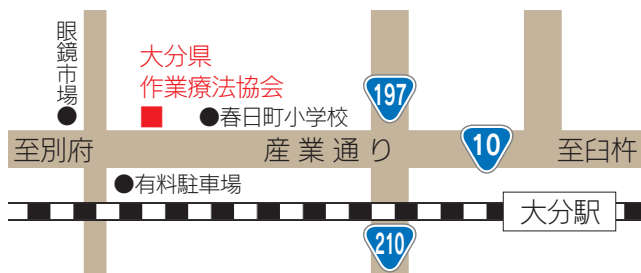
大分市西春日町3-2 TEL 097-547-8662 FAX 097-547-8663

<http://www.oita-ot.com/> 大分県 作業療法 検索

Facebookはこちらから



リハビリテーションのことや、作業療法
のことで分からなかったり、お困りのこ
とがありましたら、右記までご連絡くだ
さい。



公益社団法人 大分県作業療法協会

〒870-0038 大分県大分市西春日町3-2 大分県作業療法協会ビル

TEL:097-547-8662 FAX:097-547-8663

<http://www.oita-ot.com>